



四季報

令和5年
(2023年)
第23号

広報編集室 TEL : 029-879-7351 FAX : 029-879-7352 つくば市天王台1-1-1 筑波大学人間系(共同研究棟 A408)

第84回みんなラボカフェ



デザインに参加するって何をするって?

2022年12月2日、第84回みんなラボカフェが、KDDI総合研究所・新井田統氏と静岡大学・須藤智先生による「デザインに参加するって何をするって?」のテーマで行われました。私はオンラインで参加いたしました。デザインについてあまり深く考えたことがありませんでしたが、今回のみんなラボカフェでその面白さを学ぶことができました。

デザインと言えば日常生活のどこにもあるテレビ、冷蔵庫などの家電製品、IT機器やレトルト食品の袋、飲料水の容器等々、モノの形が浮かび上がります。しかし、「デザインに参加する」と言うことに着眼しますと、多様な考案が出来るのがわかりました。プレゼンテーションでいくつか紹介されましたが、その中で「ママココ」についての話がありました。子育てや家事を優先して、自分の時間をなかなか確保できないママたちが、僅かな時間を効率よく使い、「わたし」に戻るサードプレイス(第三の場所)をデザインするという内容です。集まったママたちで意見交換やアイデアを出して検討した結果、「みんなを使う冷蔵庫」がデザイン作りのテーマとなりました。使う人の気持ちになって課題を考え、知恵を出し合い工夫してみんなで使えるものにしよというものでした。このように、日常生活の中で何気なく見ているもの、使用しているものを、いろいろな角度から考えてみると新たな発見が出来るそうです。高齢者が使いやすい、使いにくいものも見えてくるのではないのでしょうか。

「デザインに参加する」というのは、奥が深いですが、まずは参加者全員で

テーマを決めて、何を・誰が・使用するか、それにはどうすればよいかなどの、アイデアや意見交換をして作り上げて行くことも一つの考えだと思えました。

例えば、ボランティアグループが、秋の落葉を利用してリースを作り、介護施設にプレゼントすることで、利用者の皆さんに季節感を味わって頂くのも良いのではないのでしょうか。また、利用後の意見、感想を伺う事も大切のように思います。

「デザインに参加する」、それは老若男女を問わず誰でもどこにでもあるものを取り上げて自分たちで作れるものと思えました。これは面白く楽しいテーマでした。最後に講師をしていたいただきました新井田様・須藤先生に御礼申し上げます。(新聞)



これまでの四季報について

みんなラボのホームページでは、これまでに発行されたすべての四季報をご覧になることができます。振り返って見たいときには、ぜひご覧ください。
<https://tsukaiyasusa.jp/shikuhou.html>

または「みんなの使いやすいラボ 四季報」と検索してください。下のQRコードで見ることが出来ます。



「幸せの黄色いレシート 運動にご協力を」

今年の初め頃から、「コロナ禍が少しづつ落ち着きはじめ、春には以前のように、お花見ができました。外国からの観光客も少しずつ増え、コロナ前に戻ったような賑わいを観光地や空港で見ることができました。日本列島にようやく活気が戻ってきました。でも、まだまだマスクは外せません。

いつも社会貢献活動の「幸せの黄色いレシート」にご協力をいただきましてありがとうございます。4月2日(日)午後1時30分よりイオンモールつくば2階イースト・コートにて、「幸せの黄色いレシート」の活動団体に対して、贈呈式が行われました。みんなラボからは根岸、鶴川が参加しました。昨年の4月から今年の3月までの実績により、イオン様から助成金額分のイオンギフトカード(37,400円)が贈呈されました。

会員の皆様から毎月11日の「幸せの黄色いレシートデー」にたくさんのご協力をいただいた成果だと思えます。この助成金は、みんなラボ活動費として利用させていただきます。本当にありがとうございます。(鶴川)



授賞式にて

みんなラボ総会&国際シンポジウム報告

第11回みんなラボ総会は3月21日につくば国際会議場にて執り行われ、午前中は総会本会議、午後は「これからのリビングラボのあり方を考える」と題したみんなラボ主催の国際シンポジウムとなり、大変タイトなスケジュールで執り行われました。今回の総会報告は午後のシンポジウムの内容も併せての報告にしたいと思います。

2022年度総会報告

①現在の登録会員状況について

2023年3月1日時点 221名(男性79名 女性142名)。ぜひ男性の会員さんも増えていただきたいとのコメントがありました。

つくば市を中心に県南地域在住の高齢者(平均年齢76・96歳、レンジ59〜95歳)

②みんなラボカフェの記録

すべて「対面+オンライン」で実施

第79回(4/15)「コロナ禍、そしてこれからの観光を考える (株)ドリームワールド 高橋良司さん

第80回(6/10)「地域の移動を支える自動運転バス…境町での実導入事例 BOLDLY株式会社 改發 壮さん

第81回(7/19)「特別展「きみロボ展」のご紹介 日本科学未来館 園山由希江さん

第82回(9/27)「調べ物ってなあに?…図書館のサービズご紹介 筑波大学図書館情報メディア系 武田将季先生

第83回(10/28)「カゴメの植物性食品(プラント・ベース・フード)への取り組みと今後 カゴメ株式会社 稲葉洗貴さん・石岡大輔さん

第84回(12/2)「デザインに参加するって何をすること? KDDI総合研究所 新井田統さん・静岡大学 須藤智先生

第85回(2/17)「冷凍食品ができるまで」—食品メー

カー研究所での商品開発秘話— マルハニチロ株式会社 古田久美子さん

③みんなラボ広報誌「四季報」

第21号…2022年10月1日発行
第22号…2023年4月1日発行

皆様ぜひ、編集にもお力をお貸しください!

④みんなラボ対外活動の報告

2022年度の新しい活動
筑波大学みんなラボ主催 国際シンポジウム

「これからのリビングラボのあり方を考える」

対面、日本語ベースで実施、後日英語字幕を付けてネット配信を予定しています。

⑤ウィズ・コロナ生活とみんなラボ

新型コロナウィルスとの付き合い方が、いま変わろうとしています。みんなラボはこれまでと同様、「知恵を絞りつつ」しっかりと感染予防をしながら、出来ることからみんなラボのさまざまな活動を続けていきたいと考えています。みんなラボでの活動の基本は対面活動です。「オンライン」も補助的なもう一つの方法としてうまく使っていければと考えています。

⑥みんなラボその他の活動

広報編集委員会はみんながみんなを元気にするグループ会議です。

「幸せの黄色いレシート」活動

毎月11日がイオンデーです。イオンモールつくばに買い物にいらしたらみんなラボのボックス「No.16」にレシートの投函をよろしくお願いたします。

●研究成果発表会のポスター紹介
総会会場の隣スペースで説明員が説明しました。

⑦みんなラボ人事の報告

2023年度みんなラボ事務局メンバー
ラボマネージャー 小竹久代 森礼子 齊藤さつき
研究員 劉文娟(2023年4月着任) 安久絵里子
※2023年4月をもちまして研究員の鷹阪龍太は
離任いたしました。

国際シンポジウム報告

これからのリビングラボのあり方を考える
リビングラボとは何か…概論

◆新井田統(KDDI総合研究所)

◆デンマークのリビングラボ 共創・民主主義
安岡美佳(Roskilde University)

◆包括的なスマートシティのためのリビングラボの検討
パク・ジユホ 藤井さやか(筑波大学)

◆みんなラボでの活動とその影響 会員の視点から
根岸幹和(みんなラボ会員)

◆日本における実践事例報告
須藤智(静岡大学)・新井田統(KDDI総合研究所)

(根岸)

国際シンポジウムの様子は こちらからご覧いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=n9q_oVgw-w

またはYoutubeで「みんなの
使いやすいラボ シンポジウム」
と検索してください。下のQRコード
からも見ることができます。



第85回 みんなラボカフェ

冷凍食品ができるまで
食品メーカー研究所での商品開発秘話



第85回 みんなラボカフェが2023年2月17日に開催されました。講師はマルハニチロ株式会社中央研究所の古田久美子さん。「冷凍食品ができるまで」と題し、興味深い商品開発秘話について分かりやすく説明していただきました。

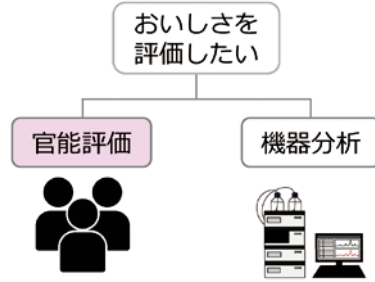
食品製造業界では通常年2回、新商品の調査・企画・開発・生産が行われています。中央研究所ではそのめまぐるしいサイクルでは解決できない中長期的な課題に取り組んでいるとのこと話がありました。

当日は、次の3種類の食品について詳しい説明がありました。**冷凍天ぷらの開発**

冷凍庫での保管は、霜取り機能、「扉の開け閉めなどによる温度の上昇を避けることができませぬ。そのことが原因で、揚げ物を保管すると衣が「ふにゃふにゃ」になることがわかりました。「サクサク」な食感をだすためには、衣のつけ方を工夫して2回つけているそうです。

冷凍まぐろたたきの開発

「おいしさ」は、人それぞれに基準が異なり幼少時に食べなれた味や情報などによって、脳の報酬系が刺激されて感じると言



われます。熟練した技術者が、「見た目もトロ、食べてもトロ」感を出す研究をして商品化したそうです(図参照)。

冷凍チャーハンができるまで

チャーハンでは、その特徴とも言えるご飯が「パラパラ」で香りをよくするために、卵や調味料を工夫し、工場でのロボットによる「料理」の際、鍋の温度を細かく調整することで「おいしさ」を出しているそうです。みんなラボ事務局から質問がありました。

Q 最近さまざまな冷凍食品が、スーパーや自動販売機などで売られています。なぜでしょうか。

A コロナ禍で空前の冷凍食品

ブームとなり、自動販売機や専門店ができたそうです。

Q これからの冷凍食品はどのようなになりますか？また、どのようにしていきたいですか。

A 加工、冷凍技術の向上で、さらなるおいしさ、安心・安全を追求し、同時に健康と楽しい要素をプラスして、より身近で、心に残る商品の開発を目指していくそうです。

冷凍食品には皆さん関心が高く、会員からも質問や意見が活発に出されました。その一例です。

Q 野菜の冷凍はなぜ難しいのですか？

A 野菜は急速冷凍であれば食感等は保たれます。ただし戻し方が難しいとのことでした。

講師からもパッケージに関する質問がありました。参加者からは「食にあったデザインでとても良かった」との声が多く聞かれました。

家庭の味としての冷凍食品を利用する頻度が高まっている中、さらなる加工技術の向上をめざしていただくとよいなと期待しています。地産地消がますます重要になるなかで、地元のものや冷凍食品に加工できれば食文化が守られて、安心・安全、SDGsにつながると思います。

(新関・石橋)

白と緑のハーモニー…可愛い!! おいしい!! 「焼きタマ」つくってみませんか

1. 「焼きタマ」体験談

その昔、4年間滞在中南米で、3〜4m大に育ったタマネギを収穫し、焼き肉や煮込み料理に用いていました。旧知の茨城県農業総合センター園芸研究所の方々とその雑談がきっかけで、検討中の課題の一部実施のかたちで焼きタマ試験が行われました。試験は秋採り(8月末定植、10月中旬収穫、13品種)と初夏採り(4月中旬定植、6月中旬収穫、4品種)の二回実施されました。その結果、球形で焼くのに時間はかかるが、食感、食味も良好で、「焼きタマ」として使用可能との評価が得られました。

2. アツと驚いた「焼きタマ」効果

夏休みの時期、孫達も集まる際の定番料理はバーベキュー。用意したのは自家製焼きタマ。集まる50日前位にベランダに横長のプランターを用意し、10円玉大のタマネギセット球を植えつけました。育ったタマネギを、焼き時間を短縮するため、球を二つに

輪切りにし、鉄板焼きとしたところ、小学生の孫達が奪いあうかのように箸を伸ばしたのです。まさに焼きタマじいさん冥利に尽きる一時でした。タマネギは硫化アリルという物質を含み、茶褐色になるまで加熱すると分解して、砂糖の50倍の甘味物質に変化し、特有の香ばしさも加わるのだそうです。

3. この記事執筆のきっかけ

四季報記事の読み合せも終り、ホッとしたところで出てきたのがバーベキューの話。焼き肉の付け合わせ野菜として欠かせないのがタマネギ。大玉を輪切りにして焼くのだが、そうするとしばしば黒焦げになってポイ捨てすることが多いとのこと。ついつい口出しをしてしまいました。

(本田)





四季報

が置いてあるところ

■市役所・官公庁

つくば市役所・関係部署
牛久市役所
阿見町役場
茨城県県南生涯学習センター

■筑波大学および病院関係

筑波大学
筑波大学附属病院
筑波メディカルセンター病院
筑波記念病院
筑波学園病院

■市・公共団体

つくば市社会福祉協議会
みどりの風(旧つくば市民大学)
つくば市民活動センター
つくば市ふれあいプラザ
阿見町中央公民館
阿見町本郷ふれあいセンター
阿見町君原公民館
阿見町かすみ公民館
阿見町舟島ふれあいセンター
牛久市社会福祉協議会
牛久市シルバー人材センター
牛久市エスカードビル
牛久市生涯学習センター
牛久市ボランティアセンター
牛久市中央図書館

編集者紹介

【みんラボ会員】

石橋、鷯川、落合、東海林、
中井、新関、沼尻、根岸、星、
本田

【筑波大学大学院生】

鍾、岩根、澤田

【教員スタッフ】

原田、葛岡、須藤、矢野、
菅原

【みんラボ事務局】

小竹、斉藤、森、安久、劉

お問い合わせ

みんなの使いやすさラボ
第23号 2023年10月1日発行

離任の挨拶

2023年4月をもって、研究員の鷹阪龍太たかわきりゅうたが離任いたしました。離任の挨拶を掲載しましたのでご覧ください。(安久)

こんにちは、鷹阪龍太です。みんラボでは2018年から4年以上の間お世話になりましたが、2023年4月から、ゼンショーホールディングスの中央技術研究所で働いています。研究所は、食に関する調達から製造、物流、サービスまで幅広く扱っていますが、私は主にお客様へのサービスについて取り組んでいます。これはみんラボが扱ってきたテーマでもあり、原田先生や、研究員・事務局のみなさま、何より会員みなさまと取り組んできた経験が自分の力になっていることを実感する日々です。未熟な私がどうにか社会に出ることができた(?)のは、本当にみなさまのおかげだと思っています。ありがとうございました。ゼンショーの「使いにくい」ところを見つけましたら、ぜひ教えてくださいね。

文部科学大臣表彰受賞のご報告

この度、「みんラボカフェ」や「みんラボ四季報」など、みんラボでの活動の一つ「コミュニティ活動を紹介した科学技術と人工物利用の理解増進」の業績が高く評価され、「令和5年度文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)」を受賞いたしました。この賞は、文部科学省が科学技術に関する顕著な成果を収めた功労者を顕彰するためのものです。このうち、理解増進部門は、青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し、又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループを顕彰するものです。



(安久)

みんラボを代表して原田先生らの名義での受賞となりましたが、これもひとえに「みんラボカフェ」や「みんラボ四季報」を通して、「みんなにとっての使いやすさ」を考える活動を一緒に盛り上げてくださった「みんラボ会員の皆様」のおかげです。ありがとうございます。これからも、みんラボでの活動へのご参加をよろしく願っています。

編集後記

人生にも上り下りがあり、上り坂を男時(おどき)、下り坂を女時(めどき)というそうですが、それだけではなく「まさか」という三つ目の坂があるそうです。

言われてみると、「コロナ禍やウクライナ侵攻に伴う物価の値上げ、国内で頻発する自然災害や事件・事故。周りは「まさか」に溢れています。

だからでしょうか、「笑い」への関心が高まっているそうです。「笑う門には福来る」とはなじみの諺ですが、その効果はすばらしく、リラックスする、血中酸素増、鎮痛効果、ストレスの癒し効果や免疫力アップなど、多岐に渡るそうです。

「編集会議 協道にそれ 笑い声」から、「焼きタマ」の欄も生まれました。編集会議は互いの「心のバリア」を溶かす場でもあります。ご参加お待ちしております。

(本田)

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学人間系(共同研究棟A408)
TEL : 029-879-7351 (受付)月~金 9時~17時
FAX : 029-879-7352 e-mail:mado@tsukaiyasusa.jp